



中期経営計画

2021-2024

CHALLENGE NEXT 100

2021年5月14日

00 目次

- 01 企業理念
- 02 目指す会社像
- 03 経営方針
- 04 基本戦略
- 05 事業別戦略
- 06 全社戦略
- 07 SDGs経営
- 08 定量目標
- 09 株主還元方針
- 10 株主総利回り実績

01 企業理念

- Mission -

三共生興グループは、生活文化提案企業として、人々の生活の質の向上に寄与し、豊かな夢のある社会の実現に貢献します。



人の企業である

すべての社員が自信と誇りを持ち、自由闊達で創造的な環境をつくりあげる企業



挑戦の企業である

人々の生活文化の向上のためにあらゆる側面で限りない挑戦を続ける企業



共存共栄の企業である

取引先および関係各社の理解と協力を得て相互の発展を願う企業



社会的責任の企業である

社会の倫理と規範に誠実に従い、経営の安定と拡大をもって社会に貢献する企業

02 目指す会社像

- Vision -

時代とともに生まれ続ける新しい価値観を、未来のあたりまえに。
三共生興グループは、次の100年を生きる子供たちのためにできることを社員一人ひとりが自ら考え実行し、イノベーションの創出を目指します。

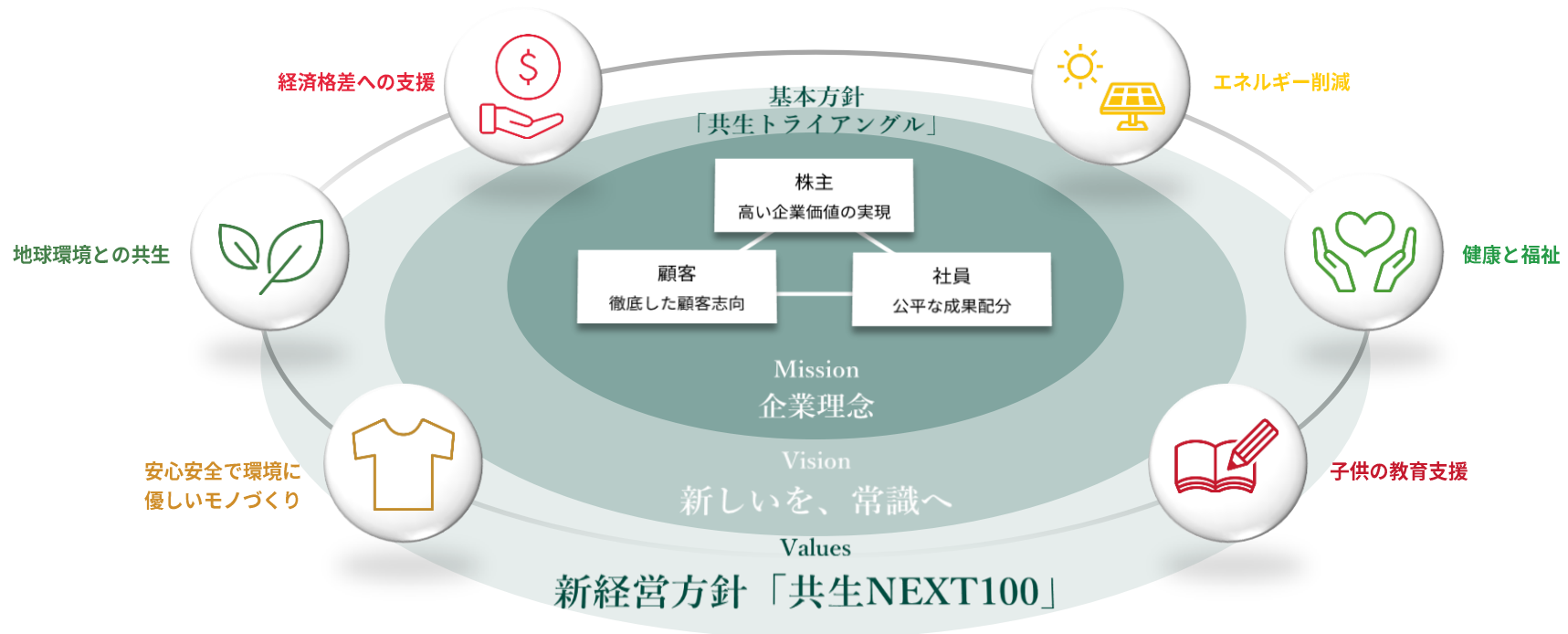
“ 新しいを、常識へ ”

100年先の子供たちのために

03 経営方針

- Values -

株主・顧客・社員の三者共生の基本方針を発展させ、社会との共生を図る新経営方針「共生NEXT100」を定め、三共生興グループのマテリアリティ（重要課題）を特定。グループを取り巻く社会のあらゆる課題に取り組むべく長期的視点でSDGs経営を推進し、持続可能な世界の実現を目指します。



04 基本戦略

2024年3月期に向けた中期経営計画「CHALLENGE NEXT 100」を策定。三共生興グループの強みを生かした戦略的な事業投資と経営基盤のさらなる強化により企業価値の向上を図ります。



アジア市場

アジア市場に重点を置きブランドビジネスを強化

- 「DAKS」ブランド販売強化
- 「DAKS」ブランド高級化路線へのさらなる投資
- 新規市場開拓



DX推進

デジタル活用による新たなビジネスモデルの構築

- EC強化
- デジタルマーケティング推進
- 新規販路拡大



全社戦略

経営資源の最大活用、グループをまたぐ組織変革

- 人材マネジメント戦略
- 財務戦略
- グループ横断戦略

2024

CHALLENGE NEXT 100

05 事業別戦略

ファッション関連事業



基本方針

- ① アジア市場重視
- ② DX活用による売上拡大
- ③ サステナビリティ

帰属するグループ会社

- 三共生興株式会社
- 三共生興ファッションサービス株式会社
- 北陸三共生興株式会社
- DAKS Simpson Limited
- Sankyo Seiko (Asia Pacific) Company Limited

主要施策

1 アジア市場重視

- ▶ アジア主要都市でのニューコンセプトショップオープン
- ▶ 中国出店加速（50店舗目標）
- ▶ 「DAKS 10」の新規展開

2 DX活用による売上拡大

- ▶ EC売上比率20%（国内）
- ▶ オムニチャネル化推進

3 サステナビリティ

- ▶ プロパー消化率（定価で販売した割合）70%
- ▶ チャリティーイベント開催
- ▶ サステナブル商品企画

05 事業別戦略

繊維関連事業



帰属するグループ会社

- 三共生興アパレルファッション株式会社

基本方針

- ① アパレル商材以外への取り組み強化
- ② チャイナプラスワン
- ③ DX活用による売上拡大

主要施策

1 アパレル商材以外への取り組み強化

- ▶ 好調なアウトドア商材開発
- ▶ イエナカ需要に対応した雑貨商材の拡充

2 チャイナプラスワン

- ▶ 生産拠点としての中国依存リスク軽減
- ▶ アジア市場へ販路拡大

3 DX活用による売上拡大

- ▶ EC強化によるグローバル販路拡大
- ▶ デジタルツール活用によるQR体制確立

05 事業別戦略



不動産関連事業

基本方針

- ① 保有不動産の資産価値および収益力向上
- ② イベントホールの稼働率向上
- ③ 地域社会との共生

帰属するグループ会社

- 三共生興株式会社
- 株式会社サン・レッツ
- 株式会社横浜テキスタイル倶楽部
- 北陸三共生興株式会社

主要施策

1 保有不動産の資産価値および収益力向上

- ▶ 保有不動産（オフィス・店舗・倉庫・ビジネスホテル）への環境配慮型設備投資

2 イベントホールの稼働率向上

- ▶ 多様な利用方法の提案

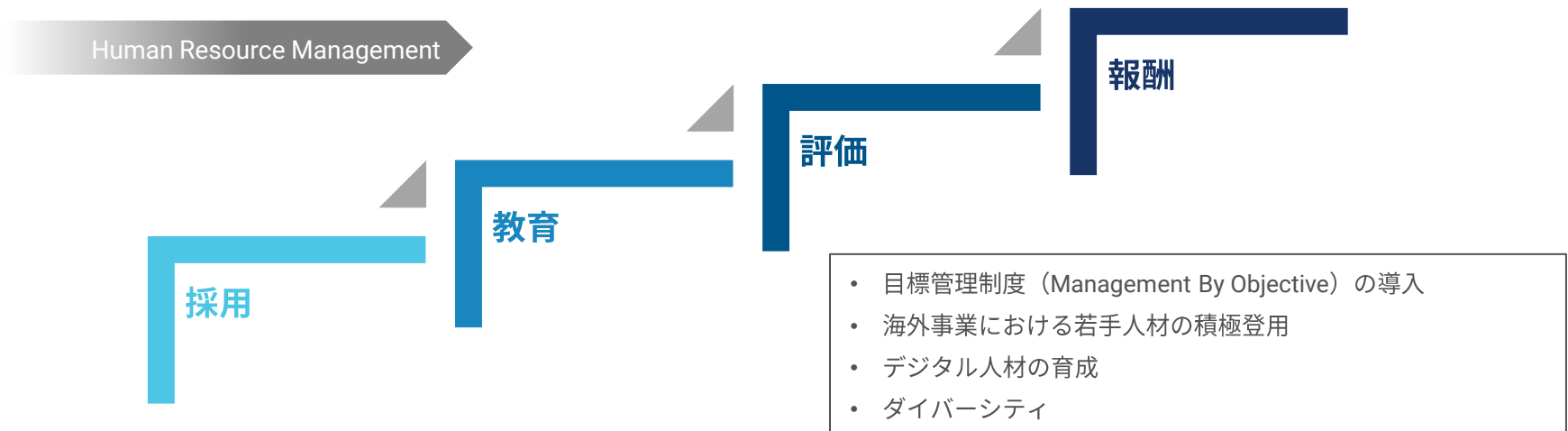
3 地域社会との共生

- ▶ 東京・大阪サンライズビル活用

06 全社戦略

人材マネジメント戦略

「ヒト（社員）」を最も重要な経営資源と位置付け、次世代のプロフェッショナル人材の育成を推進。人的資源の有効活用により質の高い少数精鋭集団を目指します。

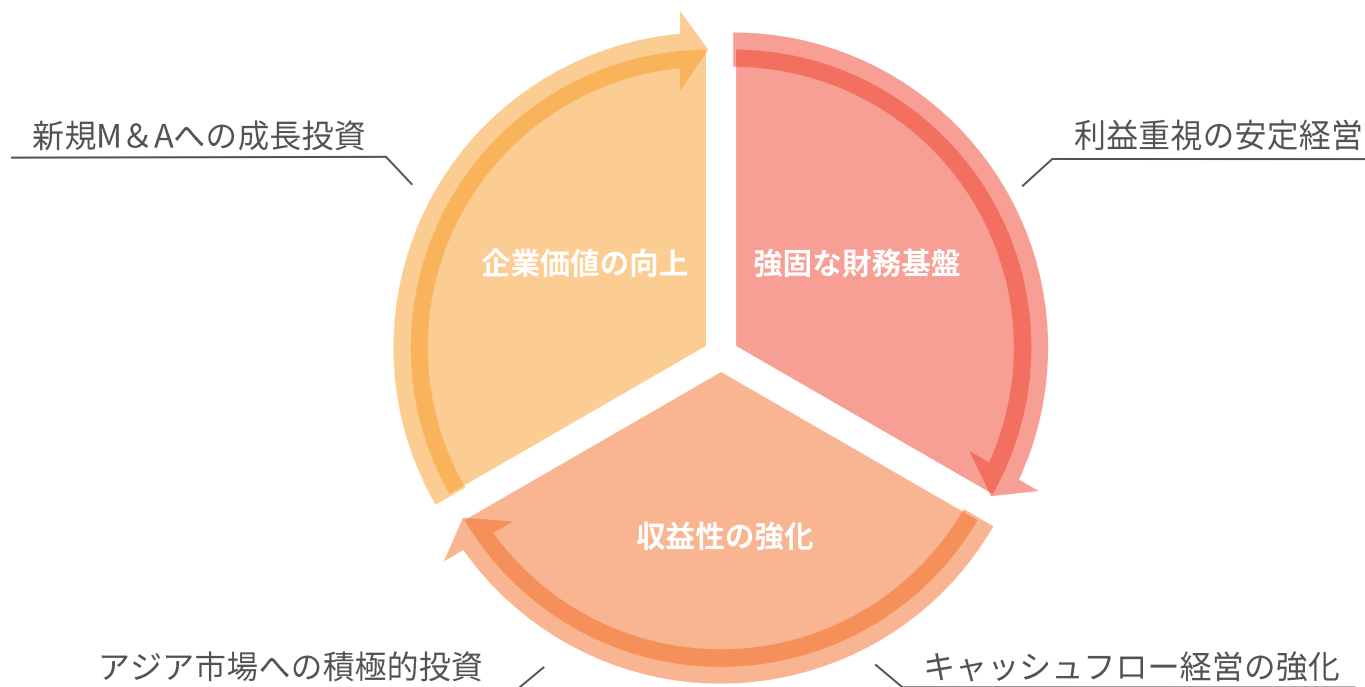


「意欲と能力のある社員に報いる会社」「社員の成長と会社の成長が一致する会社」の実現

06 全社戦略

財務戦略

厳しい事業環境においても常に投資機会を見極め、新たな成長機会を生み出していくとともに、強固な財務体質の維持に努め安定配当財源の確保を目指します。



06 全社戦略

グループ横断戦略

グローバルな組織に横串を刺し、次世代の相互コミュニケーション活性化により新たな事業機会の創出を目指します。

『グループ・ミーツ』

全社参加型リモートセッションによるビジネスモデル共有



『イントレプレナー・シーズ』

起業家精神育成による新規事業のアイデア創出



『ECプロジェクト』

デジタルプラットフォームの効率化による機会創出



『クラウドファンディング』

D2Cビジネスへの積極参入



グループの垣根を超えたヨコの繋がりによるオープンイノベーション

07 SDGs経営

- SDGs宣言 -

三共生興グループは、100年先の子供たちのために
SDGs活動に積極的に取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



※SDGs（持続可能な開発目標）とは2015年の国連サミットで設定された2016年から2030年までの国際目標。
持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

07 SDGs経営

三共生興グループは創業以来、世界中で様々な社会貢献活動を行っています。

日本における取り組み



クリスマス・ジャンパー・デーをプロモーション

「クリスマス・ジャンパー・デー※」を日本で広めるため、2017～2019年に百貨店でポップアップストアを展開。毎年売上の一部をセーブ・ザ・チルドレンへ寄付しています。



※セーブ・ザ・チルドレンが主催する「クリスマス・ジャンパー・デー」は、毎年12月に参加者がクリスマス・セーターを着用し、支援を必要とする子供たちのために最低1ポンドの寄付を行うチャリティーイベント。

公益財団法人三木瀧蔵奨学財団を通じた教育支援

当社創業者の三木瀧蔵により1972年に設立された公益財団法人三木瀧蔵奨学財団（旧、財団法人三木記念会）は、当社株式の配当金を運営資金として、奨学金給付や学校教育に対する助成を行っており、現在までに2,000人以上の奨学生を輩出。社会の進歩発展を担う学生・生徒を支援しています。



当財団の寄付により建設された
甲南大学三木瀧蔵記念体育館

サンライズビルが大阪市のごみ減量優良建築物として表彰



事業系廃棄物の減量推進やリサイクルに積極的に取り組んだとして、サンライズビルは大阪市の令和2年度「ごみ減量優良建築物」として表彰されています。

アップサイクル活動の推進



2020年より「DAKS」と「LEONARD」は過去のコレクションの未使用素材を再利用したサステナブル製品を企画・販売しています。



07 SDGs経営

香港における取り組み



クリスマス・ジャンパー・デーをプロモーション

「クリスマス・ジャンパー・デー」を香港で広めるため、2017年よりチャリティーイベントを開催。セーブ・ザ・チルドレンの活動に協賛する香港の著名人へクリスマス・セーターを提供するほか、売上の一部をセーブ・ザ・チルドレンに寄付しており、当団体から感謝状を受け取っています。



台湾における取り組み



社員主催のボランティア活動

2016年、台北支店は社会福祉・社会貢献をテーマにボランティア活動を実施。恵まれない環境下に置かれている子供たちが集う3か所の教会を訪問し、体験ゲームを通じて働くことの楽しさを伝えるなど、社員が主体となり社会貢献に取り組んでいます。



子供たちをテーマにしたチャリティーキャンペーン



2017年に香港の大型ショッピングモールで「DAKS」の子供服を販売したポップアップイベントを開催。売上の一部をセーブ・ザ・チルドレンに寄付しています。



子供たちへ向けたチャリティー販売



2013年よりクリスマスシーズンにテディベアをチャリティー販売。利益のすべてを障がい者福祉団体「財団法人エデン・ソーシャル・ウェルフェア・ファンデーション」に寄付し、子供たちの食事や教育をサポートしています。



07 SDGs経営

英国における取り組み



デューク・オブ・エディンバラ・アワード（英国）へ寄付

「デューク・オブ・エディンバラ・アワード (DofE)」は14～24歳までの青少年の自主性・自尊心を高めることを目的に、行った奉仕活動などの期間に応じて授賞する取り組み。DAKS Simpson Limited（以下、DAKS社）は30年以上にわたり寄付を続けており、2011年よりシルバーパートナーに認定されています。



シルバーパートナーの認定書

乗馬を学ぶ子供たちを支援

乗馬に親しむ子供たちの支援を目的としたボランティア団体「ザ・ポニー・クラブ」へ毎年寄付を行うほか、1979年には当時DAKS社の会長だったレオナルド・シンプソンがエリザベス女王主催のロイヤル・ウィンザー・ホース・ショーにおいて、13～15歳を対象にした馬術競技「DAKSポニー・クラブ・インターナショナル・マウンテッド・ゲームズ」を創設。以来40年以上にわたり協賛を続けています。



クリスマス・ジャンパー・デーに積極参加



「クリスマス・ジャンパー・デー」に毎年参加し、社員による募金を積極的に行っています。



ロイヤル・トリニティ・ホスピスを支援

「ロイヤル・トリニティ・ホスピス」は英国王室が長年にわたり支援する慈善団体。当団体が運営するロンドンのアパレルショップに対し「DAKS」の最終在庫品を毎年寄付しており、売上のすべてがチャリティー活動や当ホスピスの運営資金に充てられています。

エシカル・トレード・イニシアティブに加盟

「エシカル・トレード・イニシアティブ (ETI)」はサプライチェーンにおける労働条件の改善を目指す世界各国の企業や労働組合、NGO団体で構成される協会。DAKS社は協会メンバーとして倫理行動に則ったビジネスを行っています。

英国・サリー州の学校に桜の木を植樹



「ロイヤル・ラッセル・スクール」は、DAKS社2代目社長のアレクザンダー・シンプソンが設立出資メンバーの一人である英国の私立学校。2019年にはDAKS社の社員が訪問し、桜の木を植樹しています。

08 定量目標

- 新型コロナウイルスの影響は当分続き、収束した後も元の消費水準には戻らないと予測しています。
- 当社はどのような事業環境下でも安定した利益を出し、配当を続けるという強い信念で経営を貫いており、上場以来61年間一度も無配となった事業年度はありませんでした。
- 今後も堅実経営を続け、その中で新たな成長機会を生み出し、定量目標として2024年3月期に連結経常利益25億円を目指してまいります。

▶ 連結経常利益 **25**億円

09 株主還元方針

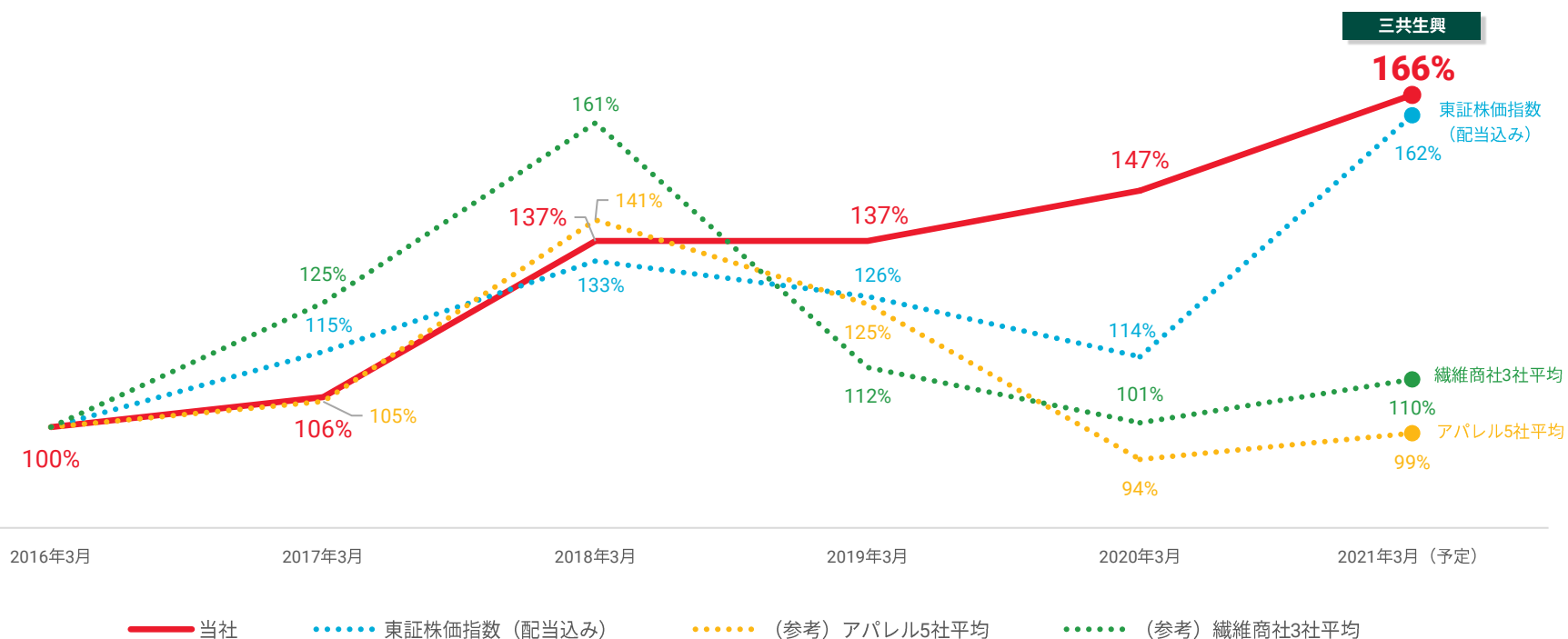
- 三共生興グループは株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと位置づけ、上場以来61年間常に配当を続けてまいりました。
- 新経営方針「共生NEXT100」のもと、SDGs経営を実践していき、安定配当を続けることにより、株主様のみならず社会に貢献してまいります。
- これまで特別損益を除いた純利益ベースで連結配当性向30%を年間配当の下限としてきましたが、これまで以上に当社の配当によって、より良い社会の実現に貢献するという思いから、今後は親会社株主に帰属する当期純利益ベースでの連結配当性向50%を目安に還元してまいります。

▶ 連結配当性向 30% ➡ 50%

10 株主総利回り実績

株主総利回り

株主総利回りとは、株式投資により得られた収益（配当と株価上昇分）を5事業年度前の株価で割った比率であり、当社の株主総利回りは業界平均を大きく上回った166%を達成いたしました。



新しいを、常識へ

本資料に記載されている内容は現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、当社の将来の業績を保証するものではありません。